

## 若年化するクラミジア感染症

宮本 由美子, 山岸 律子, 大川 美恵子  
村口 喜代

### まえがき

クラミジア・トラコマトィス（以下、クラミジアと略す）感染症は、欧米では、最も頻度の高い性感染症（Sexually Transmitted Disease: STD）であり、わが国でも同様の傾向にある。最近では、STD に対してほとんど認識のない思春期女子の罹患も決してめずらしいことではなくなってきた。今回、当科で扱ったクラミジア感染症について集計し、思春期女子における実態とその背景について検討した。

### 対象および方法

調査対象は、1992年5月以降に帯下、腹痛など

を主訴として仙台市立病院産婦人科を訪れ、膣炎や頸管炎と診断され、クラミジア抗原検査を行った患者である。

検査方法は1994年4月まではクラミジアザイム法、その後はIDEIA法である。

### 結 果

#### 1. 年度別対象者数と感染率（表1）

年度別対象者数は、1992年389人、1993年578人、1994年569人、1995年133人と、全期間で1675人であった。うちクラミジア抗原陽性者は129人で、感染率は7.7%であった。

#### 2. 年齢階級別感染率（図1）

クラミジア抗原陽性者129人について、年齢階級別感染率をみると、最も高かったのは15歳から

表1. 年度別対象者数

1992年(5月-12月)	389人
1993年	578人
1994年	569人
1995年(1月-3月)	133人
計	1675人

表2. 未婚・既婚別クラミジア感染率

	人数(人)	平均年齢(歳)	感染者数(人)	感染率(%)
未婚	882	24.0	88	9.9
既婚	793	33.9	41	5.1
全体	1675	28.7	129	7.7

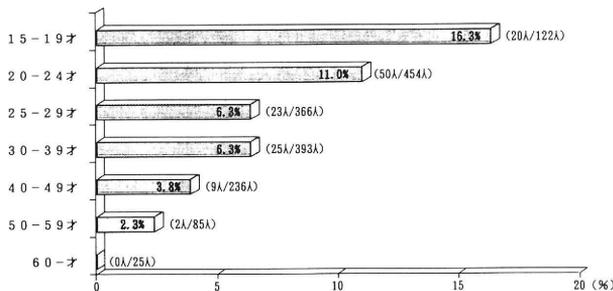


図1. 年齢階級別クラミジア感染率

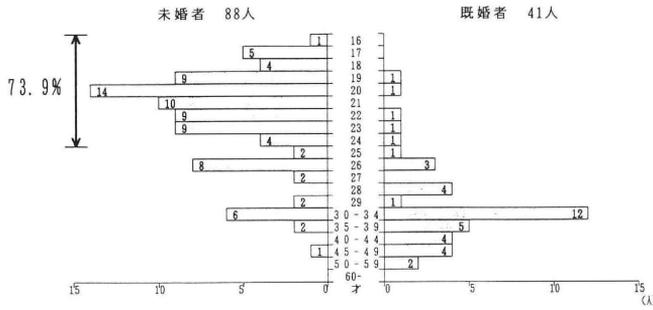


図2. 年齢別クラミジア感染者数

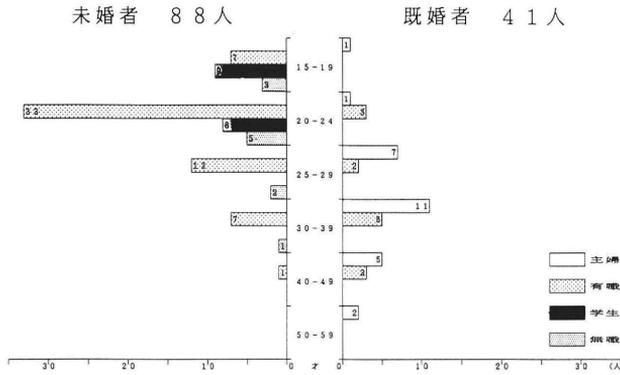


図3. クラミジア感染者の職業別分類

19歳の10代の若年者で、122人中20人が陽性で16.3%，次いで20歳から24歳で11.0%，以下25歳から29歳では6.3%，30歳代でも6.3%，40歳代では3.8%，50歳代では2.3%と年齢が高くなるにつれて減少した。

3. 未婚・既婚別感染率 (表2)

未婚・既婚別に感染率を調べた。未婚者の平均年齢は24.0歳，既婚者は33.9歳だった。未婚者は882人中88人が感染しており，感染率は9.9%，既婚者の約2倍と高率であった。

4. 年齢別クラミジア感染者数 (図2)

未婚者数88人中，陽性者は10代では19人，20歳から24歳では46人と，73.9%が10代20代前半で占めた。既婚者では30代で多くみられ，41人中17人であった。

5. クラミジア感染者の職業別分類 (図3)

感染者について，本人の問診票記載による職業より分類した。未婚者は10代では学生が多く47.3%，20歳から24歳では有職者が多く71.7%

だった。有職者の大半は会社員だった。既婚者では各年齢層一様に主婦に多く認められた。

6. 症例 (表3)

代表的な一例として，腹膜炎を併発し多量の腹水貯溜の認められた高校生のクラミジア感染症について報告する。

症例は，15歳の高校一年生である。平成4年10月15日，月経痛を訴え思春期外来を初診した。超音波断層法で両側卵巣は嚢胞状に描出されたが，CA125は正常値であり，“機能的月経困難症”と診断し，鎮痛剤を投与し経過を見た。平成5年2月4日「下腹痛がひどい」と訴え来院した。CA125は異常なかった。1か月前から男性と性交渉があるというので，腔分泌物及び頸管内のクラミジア抗原検査も行ったが異常はなく，引き続き鎮痛剤を投与し経過をみた。平成6年1月12日，「月経後も下腹痛がある」と訴え来院した。左卵巣が直径38mmと腫大しており，CA125も153u/mlと高値を示したことから，“臨床子宮内膜症”と診

断し、ブセレリンの投与を開始した。しかし腹痛は改善しないため3月10日再び来院した。腹部が膨満し、超音波断層法で著明な腹水貯溜像を認めた。CT所見でも腹腔内に多量の腹水を認め、卵巣は腫大し、卵巣癌が強く疑われる所見だった。CA125も1,037 u/mlと異常高値を示していた。こ

のため3月22日入院となった。しかし、クラミジア抗原検査が「陽性」と判明し、この腹水貯溜は、クラミジア感染による腹膜炎に起因するものと診断された。クラリスロマイシン投与開始と同時に退院となった。その後4月7日のクラミジア抗体検査はIgGが1,024倍と陽性であったが、IgA,

表3. 臨床経過

症 例	芳 ○ ○ 子 15 歳	
92' 10.15	初診 主訴：月経痛	超音波断層法 右卵巣 φ27 mm 囊腫状 左卵巣 φ28 mm 囊腫状 CA-125 14 U/ml
	機能性月経困難症と診断 鎮痛剤投与	
93' 2. 4	主訴：ひどい下腹痛 一ヶ月前から性交あり	膣分泌物 ほぼ正常 細菌培養 乳酸菌 (2+) 頸管内クラミジア抗原 (-) CA-125 14 U/ml
	鎮痛剤投与	
	鎮痛剤投与	
94' 1.12	主訴：月経後も下腹痛あり 最終月経 12.31～	超音波断層法 左卵巣 φ38 mm 囊腫状 CA-125 153 U/ml
	1.27 ブセレリン投与	
	2.17 ブセレリン投与	
	3. 7 ブセレリン投与	
	3.10 主訴：下腹痛あり	超音波断層法：著名な腹水貯溜あり CT-Scan：卵巣腫瘍の可能性 CA-125 1037 U/ml 腹水細胞診 no malignancy 膣分泌物 黄色、膿性、多量 超音波断層法：腹下貯溜ほとんど認めず クラミジア抗体：IgG 1024 倍 IgA 8 未満 IgM 8 未満
	3.22 入院	
	3.24 退院 クラリスロマイシン投与開始	
	4. 7 Sexpartner：18 歳 今までに 10 人位	
	4.21	CA-125 38 U/ml
	5.26	CA-125 9 U/ml

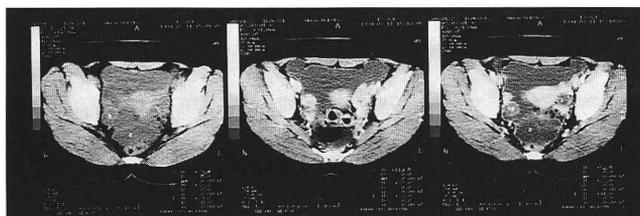


図4. 症例のCT-Scan像

IgM は陰性であった。治療により著明だった腹水貯溜は激減し、CA1 25 も正常化した。その後 IgA, IgG とも陽性であることが確認された。なお、患者はそれまで約 10 人の男性と性交渉を経験していたということであった。

## 考 察

1993 年青少年の性行動に関する調査<sup>1)</sup>によると、1987 年の結果と比較し、性行動の「低年齢化の兆し」が指摘された。特に、女子の積極化が目立ち、なかでも高校生女子の性交経験率 (15.7%) は著しく上昇した。それに、昨年の厚生省の報告では、結婚年齢 (26.2 歳) は上昇し、晩婚化は一層進んでいることから、女性がパートナーを求め、それを特定するまでの期間がますます延長することが予想される。今回、クラミジア感染症が 10 代、20 代前半の結婚前の女性に多かったということは、今後、STD に対する社会的啓発を特に若者に向けて行って行かなければ、STD の一層の蔓延化を許してしまうという懸念を強くした。

現代は情報が高度化し、一方では、性の商品化が深刻なまでに進んだ社会である。価値観の多様化、人権意識の高揚など社会的状況の変化と相まって、継続した人間関係が作りがたく、男女関係は容易に破綻しやすいという弱点を生んでいる。それ故に、結果的には、安易な性交渉が繰り返されている。このことは「結婚前の女性が、STD に対する知識のないまま、安易に性交し、感染している」という今回の結果からも明らかであり、若者の性行動の質が問題視される。

本疾患の増加は、感染症サーベイランス委員会の報告からも注目されており、千村<sup>3)</sup>によると、東京地区では、本病の感染率は 12.5%、うち 20 歳未満は 20% であるのに対し、著者らの結果でもそれぞれ 7.7% および 16.3% と、地方においてもその傾向は同様で、全国的な拡がりを示す裾野の広い STD であり、これに歯止めをかけるには社会的対応が強く望まれる。

クラミジア感染症は、無症候性に経過するものがある一方、今回のように劇的な腹膜炎を起こす

ことも憂慮される疾患である。本疾患は、月経時に顕在化することはよく観察されることである。思春期女子では月経痛を訴える者が多いため、注意深く問診しないと今回のように診断の時期を遅らせてしまう。思春期女子に対しては、診察上も特別な配慮が必要とされるが、STD においてはまったく大人と変わりがないという現実も忘れてはならない。

昨今は、氾濫する性情報が多種多様な形で生活全般に入り込んでいる。特に、性知識、人生の経験・訓練の乏しい思春期の若者への影響が憂慮されてきたが、今回の結果および症例は、それを裏付けるに充分である。彼らが性に対する正しい知識を身につけ、避妊のみならず、STD を予防できる判断力・実行力を持てるように、指導・援助していく体制作りが、緊急かつ重要な課題である。その一担をになうべき思春期医療のシステム化・充実化が一層望まれる。

## ま と め

1. 膣炎、頸管炎の患者は 1,675 人中、クラミジア抗原陽性者は 129 人で、感染率は 7.7% であった。
2. クラミジア感染者は 10 代から 20 代前半に多く、15 歳から 19 歳では 16.3%、20 歳から 24 歳までは 11.0% であった。
3. クラミジア感染者は、10 代では学生 (47.3%) が多く、20 歳から 24 歳では有職者 (71.7%) が多かった。
4. 未婚者のクラミジア感染者のうち、73.9% が 10 代から 20 代前半で占めた。
5. 重篤な骨盤腹膜炎を併発した思春期女子のクラミジア感染症例を報告した。

## 文 献

- 1) 日本性教育協会 (編): 青少年の性行動 (第 4 回) 日本性教育協会, 東京, 1994.
- 2) 厚生省, 統計情報部: 人口動態統計 1995.
- 3) 千村哲朗: 産婦人科感染症—STD としてのクラミジア感染症—. 化学療法の領域 **10**, 275-285, 1994.